

2018年3月期 第2四半期決算電話カンファレンス 主な質疑応答

日時：2017年10月27日（金）14:00 ～ 14:45

出席者：取締役 常務執行役員 財務部門長 浜田 昭博

広報・IR グループリーダー 小林 太郎

通期業績予想に関して

Q1：通期計画を据え置いたということは、上期の結果を差し引きしますと下期は下振れを予想しているのですか。

A1：いいえ、通期の業績予想は修正していませんが、据え置いた数値から営業利益、当期純利益とも上振れの可能性があります。

営業利益としては、概算では化成品が+15億円、特殊品が+5億円、セメントが△5億円、ライフアメニティーが△10億円、その他が+15億円の合計20億円ぐらい増加しそうです。

原燃料価格については、上期の前年同期比で石炭が30億円、国産ナフサが20億円増加して、下期もさらに価格上昇が想定されますが、それらの上昇分も予想に織り込んでおります。

半導体向け多結晶シリコンに関して

Q2：多結晶シリコンの来年の販売価格についてですが、値上げの可能性はありますか。

A2：それらも含めて現在お客様と交渉しております。

Q3：原料となる金属シリコン価格上昇は、下期のコストアップの要因になりますか。

A3：その可能性も考慮しております。

セメントに関して

Q4：セメントの国内での値上げと海外向け販売価格の状況について教えてください。

A4：国内向けの販売価格について、値上げを打ち出した会社は今のところございません。輸出価格もかなり軟化していると認識しています。

財務に関して

Q5：デッドアサンプション契約の締結など有利子負債の削減を進めていますが、目的を教えてください。

A5：デッドアサンプション契約締結は、中期経営計画にもともと織り込んでおりました。

長期借入金の期限前返済は、手元資金があるので財務指標を改善するためにも返済できるものは早めに返済します。中期経営計画の最終年度の数値をなるべく前倒しでクリアして、目標である「シングル A」の格付けを早期に達成し、事業面を財務面でバックアップする形にしていきたいと考えています。

Q6 : 「有利子負債の削減目標を達成するまで、配当額は増やさない」ということではない、との理解でよろしいですか。

A6 : その認識で結構です。

以上